

「ス」国宝指定30周年

茅野市の誇り 太古の遺物

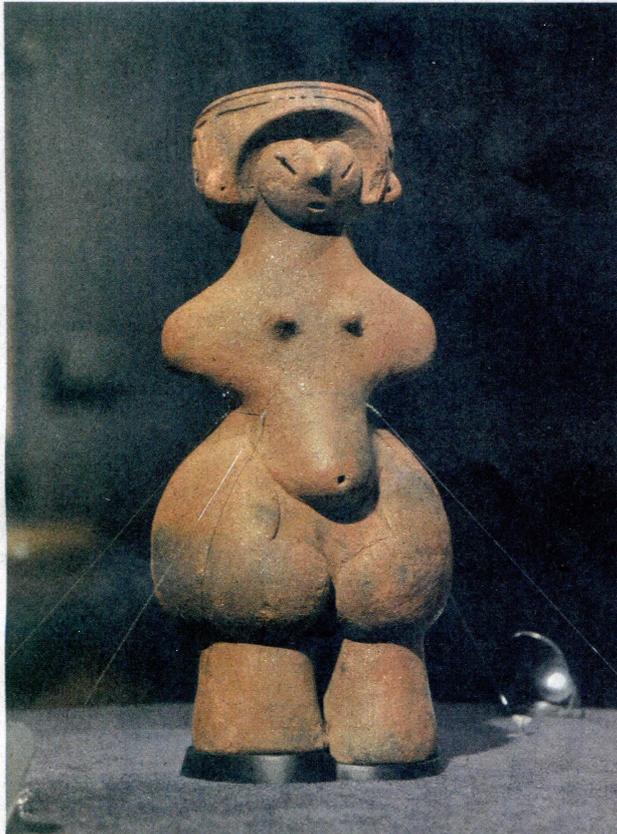
指定日の15日に記念対談

15〜29日にお誕生日の催しも

茅野市内から出土した土偶「縄文のビーナス」が、国宝に指定されて15日で30周年を迎える。縄文のビーナスを所蔵する市尖石縄文考古館は記念イベントを計画。15日に記念対談、15〜29日には国宝指定30周年の「お誕生日の催し」をともに同館で行う。

記念対談は午後1時30分から。国宝指定に当たって深く関わりのある元文化庁主任文化財調査官の原田昌幸さんと、縄文のビーナスを発見した同館特別館長の守矢昌文さんが語り合う。タイトル

ルは「対談『縄文のビーナス』の国宝指定を語る〜『縄文のビーナス』の発見・再評価〜」。参加無料（資料代100円）。申し込み不要で、定員80人（当日先着順）。お誕生日の催しは連日午前9



6月15日に国宝指定30周年を迎える土偶「縄文のビーナス」

時〜午後5時。▽お祝いメッセージを書いてボードに貼ろう▽「縄文のビーナス」と「仮面の女神」の大型の土偶バルーンと一緒に写真を撮ろう▽妊婦に安産を願って縄文のビーナスのしおりと缶バッチをプレゼントの内容。このほか15日限定で、縄文のビーナスのしおりを先着100人にプレゼントする。

2026年1月25日にはシンポジウムも予定。土偶研究の専門家を迎え、縄文や土偶について一般の人に分かりやすく、親しみの持てるように伝える機会にしたい考え。

縄文のビーナスは1986年、同市米沢埴原田の棚畑遺跡から出土。約5000年前の縄文時代中期に作られたとされる。



1986年の「縄文のビーナス」の出土状態（茅野市尖石縄文考古館提供）

高さ27センチ、重さ2・14キログラムの立像形の大型土偶。ほぼ完全な形で発掘された。おなが膨らんで突き出し、尻が大きく張り出して妊娠した女性の姿を表現している。安産祈願や子孫繁栄を願ったと考えられている。帽子をかぶっているような形の頭や、ハート形で仮面をかぶっているような顔、つり上がった切れ長の目なども特徴だ。95年6月15日に国宝に指定された。八ヶ岳山麓の土偶に特徴的な姿や造形美に加え、縄文時代の精神文化を知る上で貴重なことなどが評価され、茅野市関係で初めて、縄文時代の遺物としても初の国宝指定となった。